

建設工事競争入札心得（総合評価方式）

（総則）

第1条 豊頃町が総合評価落札方式によって発注する工事請負の入札に当たっては、別の定めのあるもののほかこの心得を承知してください。

（入札）

第2条 入札参加者は、入札書を作成し、封書の上、自己の氏名を表記して提出（入札箱に投入）しなければなりません。

（公正な入札の確保）

第3条 入札参加者は、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号）等に抵触する行為を行ってはなりません。

（代理）

第4条 入札参加者は、代理人をして入札に参加させようとするときは、当該入札の執行前に、その旨を証する書面（委任状）を入札執行者に提出しなければなりません。この場合において、入札書には、入札参加者（委任者）と代理人の氏名（法人の場合は、その名称及び代表者氏名）を併記し、代理人が押印して入札するものとします。

2 入札参加者又はその代理人は、当該入札に対する他の入札参加者の代理をすることはできません。

3 入札参加者は、競争入札の参加を排除されている者又は競争入札の参加資格を停止されている者を入札代理人とすることはできません。

（入札書の書換え等の禁止）

第5条 入札参加者又はその代理人は、その提出した入札書を書き換え、引き換え、又は撤回することはできません。

（無効入札）

第6条 次の各号のいずれかに該当する入札は、無効とします。

（1）入札書の記載金額その他入札要件が確認できない入札

（2）入札書の記載金額を加除訂正した入札

（3）入札書に記名押印がない入札

（4）所定の入札保証金の納付又はそれに代える担保の提供をしない者のした入札

（5）一の入札者又はその代理人が同一事項について二以上の入札をしたときの入札

（6）代理人が2人以上の者の代理をしてした入札

（7）入札者が同一事項について他の入札者の代理をしたときの双方の入札

（8）無権代理人がした入札

（9）入札に関し不正の行為があった者のした入札

（10）入札に参加する者に必要な資格のない者のした入札

（11）その他入札に関する条件に違反した入札

（開札）

第7条 開札は、公告又は通知した場所において、入札の終了後直ちに入札参加者又はその代理人の面前で行います。ただし、入札参加者又はその代理人が開札の場所に出席できないときは、当該入札事務に関係のない職員を開札に立ち合わせます。

2 開札においては、予定価格の範囲内の価格をもって入札をした者全員について、

その入札者名及び入札価格のみを発表するものとし、落札者は、落札者決定基準に基づき、入札価格及び提案内容を評価の上、後日決定します。

(再度入札)

第8条 開札の結果、予定価格の範囲内の価格をもって入札をした者がいない場合は、直ちに出席者（初度の入札参加者）で再度入札を行います。

(落札者の決定)

第9条 予定価格の範囲内の価格をもって入札をした者のうち、総合的な評価により、評価値が最も高い者を落札者とします。

2 評価値が最も高い入札者が2人以上いる場合は、くじ引きにより落札者を決定します。この場合において、くじを引かない者がいるときは、当該入札事務に関係のない職員にくじを引かせます。

(評価値が最も高い入札者を落札者とししない場合)

第10条 開札の結果、次の各号のいずれかに該当するときは、評価値が最も高い入札者を落札者とししない場合があります。

(1) 当該申込みに係る価格によっては、その者により当該契約の内容に適合した履行がされないおそれがあると認められるとき。

(2) その者と契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがある著しく不相当と認められるとき。

2 前項の規定に該当する入札を行った者は、支出負担行為担当者の行う調査に協力しなければなりません。

3 第1項の規定により、評価値が最も高い入札者を落札者とししない場合は、予定価格の範囲内の価格をもって申込みをした他の者のうち、評価値が最も高い入札者を落札者とします。

(契約の締結)

第11条 落札者が当該契約を締結しようとするときは、支出負担行為担当者の作成した契約書案に記名押印の上、落札決定の通知を受けた日から7日以内に支出負担行為担当者に提出しなければなりません。

(契約保証金等)

第12条 契約を締結しようとする者（契約保証金の納付を免除されている者を除く。）は、契約金額の10分の1に相当する額以上の契約保証金を納付し、又はこれに代える担保を提供しなければなりません。ただし、町を被保険者とする履行保証保険証券を提出したとき又は保険会社に町を債権者とする公共工事履行保証証券を提出させたときは、契約保証金の全部又は一部の納付を免除します。

2 前項の履行保証保険は、定額（定率）てん補の特約のあるものとし、かつ、保険期間が工事の始期から引渡し完了予定日までの期間以上のものでなければなりません。

3 第1項の公共工事履行保証証券は、工期の完成期限までに生ずる債務不履行が保証されるものでなければなりません。

4 契約保証金に代える担保として定期預金債権を提供するときは、その担保に質権を設定し、当該金融機関の確定日付けのある承諾書を提出してください。

5 低入札価格調査を受けた者との契約については、契約保証金の額を契約金額の10分の3に相当する額以上とします。

(談合情報に対する対応)

第13条 入札に関して談合情報があった場合は、入札の執行の延期、事情聴取及び工事費内訳書の徴取を行うこと又は入札の執行を取りやめることがあります。

2 契約締結後に入札談合の事実があったと認められたときは、契約を解除することがあります。

(入札の取りやめ等)

第14条 前条第1項及び第2項に定めるもののほか、支出負担行為担当者が入札を公正に執行することができないなど特別の事情があると認めるときは、入札の執行を延期し、又は取りやめることがあります。

(入札の辞退)

第15条 入札参加者として資格を有すると通知を受けた者は、入札執行の完了に至るまでは、いつでも入札を辞退することができます。

2 入札参加者として指名された者は、入札を辞退するときは、その旨を次の各号に掲げるところにより申し出てください。

(1) 入札執行前には、その旨を文書又は口頭により支出負担行為担当者に連絡すること。

(2) 入札執行中には、その旨を口頭により入札を執行する者に連絡すること。

3 前項により入札を辞退した者に対し、これを理由に以後の指名等において不利益な取扱いを行うことはありません。

(不正行為に伴う損害賠償等)

第16条 入札に関して談合等の不正行為があった場合は、契約で定めるところにより、賠償金を徴収し、又は契約を解除することがあります。

(工事費内訳書の提出等)

第17条 入札執行時に工事費内訳書の提出してください。

2 工事費内訳書は、入札参加者又はその代理人は、工事費内訳書を封書の上、自己の氏名を表記して入札書と同時に提出しなければなりません。

3 工事費内訳書には、見積用参考資料により示す工事費内訳書様式の項目に対応する金額を記載しなければなりません。

4 入札参加者又はその代理人は、その提出した工事費内訳書を書き換え、引き換え、又は撤回することはできません。

5 第6条各号に掲げるほか、工事費内訳書が次の各号のいずれかに該当するときは、当該工事費内訳書に係る入札は無効とします。

(1) 工事費内訳書の提出がない場合

(2) 工事費内訳書の記載金額(合計金額)その他当該工事費内訳書の要件が確認できない場合

(3) 工事費内訳書に記名押印がない場合

(4) 入札者(代理人をして入札をした場合にあつては当該代理人)以外の者が工事費内訳書を提出した場合

(5) 工事費内訳書の合計金額と入札書の記載金額が一致しない場合

(6) 見積用参考資料により示す工事費内訳書様式の項目に対応した金額が確認できない場合